

わたり未来づくり発表会

「わたり未来づくり発表会」が、6月26日に中央公民館で行われました。

この発表会は、青少年の健全育成推進の一環として行われているもので、町内小中学校と巨理高校の生徒計15人が、自分自身や巨理町の未来について考えを発表しました。

今月号では、小学生の部の発表を掲載します。
なお、中学生の部は9月号に掲載する予定です。

地産地消

長瀬小学校6年 小野 柚未



「なんでこんなにおいしいんだろう？」私は、好き嫌いがそんなに多くありませんが、どちらかというと焼き肉やハンバーグなど、お肉の料理が好きです。魚はそんなに好きではありません。食卓に上がれば食べる位です。でもふしぎなことに、祖母が作るはらこめしは、何杯もおかわりしてしまうほど、おいしいのです。

はらこめしは、巨理の有名な郷土料理です。

伊達政宗も気に入って食べたそうです。私も作れるようになりたいと思います。祖母の作り方を見ました。

まず、煮汁ではらこをほぐし、一口大にした鮭をさつと煮て、煮汁を釜

に入れてたきます。家中、鮭のにおいでいっぱいになります。はらこは赤くすきとおり、ピカピカして器に盛る時には幸せな気分になります。

そんなはらこめしを私は大好きです。おいしいはらこめしが、こんなに手間がかかるものだと、初めて知りました。

「手間がかかっておいしいもの」というと、私はある食べ物のことが頭に浮かびました。それは、家族が作っているいちごです。私は小さい頃から当たり前のようにいちごを食べていたの、特に何も思わずに食べていました。

ある日友達から、「毎日、いちごが食べられていいなあ。」と言われてました。そのときはそうかなあと思いましたがうらやましいと言われてから食べるいちごはいつもよりおいしく感じました。前から食べていたいちごがおいしく感じたのはなんでだろう、と思いました。

それは、当たり前前に食べていたいちごが、家族が手間をかけて作っているものであることに改めて気付いたからだと思います。それから私はいちごを食べるとき、甘さやみずみずしいだけでなく、おいしくするために日々の努力や収穫の大変さを感じながら味わうことにしました。魚がそんなに好きではない私が祖母のはらこめしを好きな理由も、い

つも食べているいちごがおいしいと感じる理由も、その人の手間がかかっていることが関係していると思います。手間をかけることは大変なことですが、食べる人のことを思っておいしくしようと努力していることに気が付きました。

巨理には、はらこめしやいちごの他にもおいしいものがたくさんあります。巨理に住んでいる人達にもたくさん食べてほしいし、他の地域に住んでいる人達にも巨理のおいしいものをたくさん知ってほしいと思うようになりました。

わたりスーパーモンキーズ

逢隈小学校6年 堀江 和希



僕は、二年生の時に山形県からこの巨理町に引っ越してきました。巨理町はとてもあたたかく海も近くて食べ物もおいしいので住みやすいです。巨理に来て、小さい頃からずっと好きだった少年野球を始めました。

ある日、巨理公園で試合をしました。その時、僕は、こんなにあたたかくていいところで、しかも立派な球場もあるのだから、プロ野球チームがあったらいいだろうなあ。」と思いました。仙台の楽天の球場の近くなどはよくにぎわっています。今の巨理もすごしやすく、おいしい食べ物

もたくさんあっていいところですよ。もし、プロ野球チームがあつて立派な球場があれば、よりたくさんの方が集まってとてもにぎやかな町になると思います。

僕は、このチームに「わたりスーパーモンキーズ」という名前をつけました。スーパースターのようなチームになってほしい、そして、さるのようには明るく陽気なチームになってほしいということで「スーパーモンキーズ」です。もちろんチームだけではなく、巨理町民のみなさんにも「わたりスーパーモンキーズ」のようにスーパーで明るく元気になってほしいという意味もこめられています。

また、このチームを作ることで町おこしができますが、他にもこのチームがあることでいいことがあります。それは、「わたりスーパーモンキーズ」の親会社に「わたりスーパー」という、スーパーマーケットを経営しているという設定です。親会社でかせいでお金で、球場はもちろん町のせつや道路などをもっとよりのよいものにしていきます。それに巨理町民に限らず、他の地域の方に利用していただき、「わたりスーパー」良かったね。」と喜んでもらえるいいなあと思っています。

このように、巨理町のあたたかい気候と僕の大好きな野球を通して巨理を今よりももっと楽しくにぎやかな町にしていければ、うれしいです。これから毎日、すぶりを百回してヒットがたくさん打てるよう練習を積み

重ね、いつかこの「わたりスーパーモンキーズ」で活やくしたいです。

芸術で活気にあふれる巨理町

逢隈小学校6年 森 蒼衣



私の考える未来の巨理町は、「芸術の町巨理町」です。

私は音楽や図工の授業が大好きです。特に音楽は、五才からピアノを習っているので一番好きです。でも巨理町には音楽や芸術を発表するための、せん門的な施設がありません。だから、巨理町にそのような施設を作ったら良いと思います。美術館と音楽ホールの二つが入っている建物です。

音楽ホールは町民が気軽にピアノやギターなどの楽器や歌などの発表会やコンサートを開けるようにしていつも音楽の絶えない町にしたいです。有名な音楽家やオーケストラなども来てもらえるようにすればすごく良いと思います。

美術館は、町民の色々な作品を展示したり、有名な画家の展覧会を開いたりしていつでもさまざまな作品を見られたら良いと思います。町内に美術館があり、そこで芸術をかんしょう出来るという事は、子供や大人にとっても人生をより豊かにする経験になると思います。私は去年巨理郡小中学校造形作品展覧会へ入選しました。入選した作品はそれぞれの学校で順番に展示されました。ですが、タイミングが合わず私の家族

は見る事が出来ませんでした。そのような、小中学校の入賞作品や書きぞめ作品なども展示すればいつでも気軽にみんながかんしょう出来ると思います。さらに、館内にお茶やコーヒーなどが飲めるカフェを作り、ここでは巨理町の特産物のいちごをふんだんに使ったスイーツなどを販売したりして美術館内がたくさんの人々にぎわえは良いと思います。そのために私ができることを考えてみました。

大好きな音楽のピアノをたくさん練習して今よりもっとうまくなりたいです。そして色々なコンクールで賞を取り、町の音楽ホールでいつか演奏してみたいです。

そして学校では、図工の授業をがんばり、とてもきれいですてきな絵をかけるようになりたいです。絵にこだわらず工作などの授業でもアイデアを生かした作品づくりをし、私の考えているような建物に飾ってほしいと思っています。

私のこの意見を大人の人も知ってもらい、夢が実現するように考えてほしいと思います。

巨理町はまだ復興の途中ですが、だんだん落ち着いてきています。町民のみんなが音楽や芸術にふれ合い、少しずつ心にゆとりを取り戻して、また明るく活気にあふれ温かさとやすらぎが感じられる巨理町になっていけば良いなあ、と思います。

いっそう住みよい巨理へ

荒浜小学校6年 青田 啓児



僕は、巨理が大好きです。巨理は、緑が多くて空気がきれいです。のんびりしていて静かな雰囲気も良いところ

です。特に僕は、自分の住む荒浜が好きです。つりが趣味である僕は、阿武隈川の河口などでつりをしている人に、よく声をかけます。

「つれていきますか。」
「つれていきますよ。」
「今日は難しいね。」

僕は、こんな会話を楽しみにしていて、人とのふれあいが自然にできる荒浜をとて気に入り入っています。

また、おいしい食べ物がたくさんあるという点も荒浜や巨理の良いところだと思います。一つ目は、はらこめしやほつきめしなどのきょう土料理です。家ごとに味付けが少しずつ違って、僕は、自分の家のはらこめしが一番おいしいと思っています。二つ目は、いちごやりんごなどの農作物です。特にいちごは、三年生のときに勉強したことで、より身近に感じられるようになりました。

気候や自然に恵まれ、温かい人が暮らす巨理町。将来も変わらず、住みやすい町であってほしいと思っています。しかし、気になつているところもありません。町の人口が少なくなつて

しまったことと、浜辺や河口にごみが目立つことです。

震災後、巨理町から多くの人が離れてしまいました。僕たちは仮設住宅で二年ほど過ごした後、荒浜に帰ってきました。荒浜には、小中学校や保育所、コンビニエンスストア、わたり温泉島の海など、一部を直したり新しく作ったりして、次々と建物ができていきました。今では、校舎の窓からたくさんの家々や緑にのぼる田んぼが見渡せます。けれど、スーパーマーケットや、体調が悪いときにみてもらえる病院がありません。車で少し離れたところまで行かないといけないので、不便に感じることもあります。生活に必要な施設が増える、荒浜に住みたくなる人も増えるのではないのでしょうか。

また、気軽に使える広い公園や運動施設が家の近くにあるといいなとも思います。そうすれば、小さい子どもからお年寄りまで、みんなが元気に遊べるからです。今、荒浜小学校には、子どもが百人もいません。小中学生の子どもが増えて友達が増えたら、にぎやかな毎日を送れると思います。

このように、理想を言うのは簡単です。しかし、それだけでは何も変わりません。そこで、僕は、気になつていることとして挙げた一番身近な問題である、海や川のごみについて何が出来るか考えました。

阿武隈川や浜辺でつりをする人の多くは、マナーを守っています。しかし、中には、ごみを持ち帰らずに置いていく人もいます。捨てられたごみや、波で打ち上げられたごみは、河